

1 指定管理施設の概要

| | | | |
|-------|---|------|---------------------|
| 施設名 | 舞鶴市農業公園 | | |
| 指定管理者 | 株式会社農業法人ふるる | | |
| 設置目的 | 農業と自然に触れ、親しみ、学ぶ場及び市民との交流の場を提供し、農業の振興及び地域の活性化に資するため。 | | |
| 選定方法 | 公募・非公募 | 指定期間 | 令和3年4月1日～ 令和6年3月31日 |
| 所管課 | 産業振興部産業創造室農林水産振興課 | | |

2 利用状況等の推移

| | 令和3年度 | 令和4年度 | 年度 | 年度 | 年度 |
|----------------|------------|------------|----|----|----|
| 滞在農園利用組数(組) | 11 | 5 | | | |
| 日帰り農園利用区画数(区画) | 16 | 10 | | | |
| コテージ利用者数(人) | 1,281 | 2,914 | | | |
| 利用料金(円) | 12,781,636 | 16,923,701 | | | |
| 事業分利用人数(人) | 26,168 | 39,990 | | | |
| 事業分収入(円) | 30,158,460 | 50,300,547 | | | |
| 指定管理料(円) | 2,000,000 | 2,000,000 | | | |

※事業＝レストラン、加工工房、マーケット、体験(各施設の延べ人数)

3 成果(数値)目標の達成状況

| 成果(数値)目標の種類 | 市設定目標 | 年間目標(A) | 実績(B) | 達成率(B/A) |
|-----------------------|--------|---------|--------|----------|
| 交流サロン(農業レストラン)の利用人数 | 38,000 | 23,000 | 17,263 | 75% |
| 管理センター(ふるるマーケット)の利用人数 | 26,000 | 19,600 | 16,256 | 83% |
| コテージの利用人数 | 2,000 | 3,300 | 2,914 | 88% |

4 収支状況

(円)

| 収入 | | 支出 | |
|-------|------------|-------|-------------|
| 利用料金 | 16,923,701 | 人件費 | 38,134,852 |
| 指定管理料 | 2,000,000 | 維持管理費 | 4,955,349 |
| 事業収入 | 50,300,547 | 事業費 | 50,550,937 |
| その他 | 24,162,832 | その他 | 12,250,542 |
| 合計 | 93,387,080 | 合計 | 105,891,680 |
| 差額 | | | △12,504,600 |

5 所管課による評価

| 項目 | 評価 | コメント |
|----------------------------|----|--|
| (1) 事業計画の達成度 | | |
| 成果(数値)目標を達成しているか | △ | 上半期は新型コロナウイルスの影響を受け、客数・売上げも伸び悩んだが、滞在型市民農園の一部をコテージとし、新たな集客を図るなど、目標達成に向け創意工夫されていた。今後も努力されたい。 |
| 施設の将来的な構想(ビジョン)に沿った運営を行ったか | ○ | 概ね施設の将来的な構想(ビジョン)に沿った運営ができた。 |
| 施設の果たすべき使命(ミッション)を果たしたか | ○ | 概ね施設の果たすべき使命(ミッション)を果たした。 |
| 市指定事業、自主事業は計画どおり行われたか | ○ | コロナ禍でも感染防止対策を講じた上で実施できた。 |
| 利用者数の増加、利用率の上昇などが図られたか | △ | 滞在型市民農園をコテージに切り替えたことで宿泊者数の増加、利用率の上昇などが図られた一方、レストランの利用人数が伸び悩んだ。 |
| (2) 利用者の満足度 | | |
| 利用者の満足が得られたか | ○ | コロナ禍で増えた自然体験の需要に応え、ふるるファームでしかできない自然とのふれあいの場を提供し、利用者から好評を得られた。 |
| 利用者の意見・要望の把握は適切に行われたか | ○ | 通年でアンケート調査を実施し、積極的にニーズ把握に努めている。 |
| 利用者の要望・苦情への対応は十分に行われたか | ○ | 適切に行われていた。 |
| (3) 管理運営の効率性 | | |

| | | |
|---------------------------------|---|--|
| 経費の節減が図られたか | △ | 部門間での人材シェアを行うなど、人件費の節約を図られたが、レストランはビュッフェスタイルを維持したため経費削減が十分でない。 |
| 委託費、物品の購入費等の経費が最小となるような取組が行われたか | ○ | 原材料費の価格高騰が続くため、少しでも安く仕入れることができるよう、業者を変更するなど、適切な仕入・在庫管理に努められた。 |
| 収入増加のための取組が行われたか | △ | 通販事業の強化や滞在型市民農園の一部コテージ化、新商品の開発やふるさと納税返礼品などの施設外での販売に努められ、収益向上策に取り組みされた。レストランの収益増に対する取組が弱い。 |
| (4) 適正な管理運営 | | |
| 適切な人員配置が行われたか | ○ | 適切に行われていた。 |
| 職員の能力向上のための取組が行われたか | ○ | 適切に行われていた。 |
| 施設の平等な利用が行われたか | ○ | 適切に行われていた。 |
| 個人情報の管理が適切に行われたか | ○ | 適切に行われていた。 |
| 情報の公開が適切に行われたか | ○ | ホームページ、SNSを活用し、こまめな情報発信ができていた。 |
| 収支状況や会計処理が適切か | △ | 会計処理は適切であるが、収支状況については、コロナ5類移行に伴い今後は、積極的なイベントや体験事業の実施など、通年事業等のレストラン以外での収益向上策に取り組み、さらなる経営改善を図りたい。 |
| 施設・設備の法定点検及び保守が適切に行われたか | ○ | 適切に行われていた。 |
| 備品等の管理が適切に行われたか | ○ | 適切に行われていた。 |
| 危機管理、安全対策などは十分か | ○ | 感染防止対策を実施した。 |
| 法令等を遵守し、適正な管理が行われたか | ○ | 適切に行われていた。 |
| (5) その他コメント | | |
| サービス向上 | | 月1回、環境整備日を設け、園内の環境美化に努められた。市内でのイベントが少ない中、感染防止対策を講じた上で、「万願寺まつり」など定期イベントを実施し、家族連れを中心に楽しんでもらった。また、自然体験を中心とした学習の場を子供たちに提供する新たな取組については、ふるるファームでしかできないものと期待している。 |
| 経費削減 | | 経費削減努力を超える原材料費の高騰と電気料金の値上げにより、昨年に比べ赤字幅が大きくなった。今後も、シフトの見直しや適切な仕入・在庫管理、食品ロスを抑えるなど、経費削減の取組を実施していただきたい。 |
| 施設の維持・管理 | | 厨房機器のメンテナンスを定期的に行うなど、維持・管理に努められた。 |

※ (1)から(4)までにおける評価区分

- ◎(優)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準より優れた内容である。
- (良)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準に沿った内容である。
- △(可)： 協定書、仕様書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- ×(不可)： 協定書、仕様書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な内容である。

6 選定委員会による評価

| | | |
|-----|---|---|
| 評価点 | 2.5点 | ※左記の点数は、各委員が次の5段階評価を行い、その点数を平均したものです。 5：良い、4：やや良い、3：普通、2：やや悪い、1：悪い |
| 総評 | <p>市設定目標を達成していない。 利用人数が増加し、補助金等の収入が24,162千円あるにもかかわらず、12,504千円もの赤字を計上している。 ふるるマーケットに品物が少ない。 経営方針等を確認する必要がある。 農園及びコテージ以外の事業について根本的な改善策を検討されたい。小幅な改善努力では赤字が増加するだけのようと思われる。 先行きが不安である。ビュッフェスタイルを変えた方がよい。</p> | |

《参考》 過年度の評価点

| 令和3年度 | 年度 | 年度 | 年度 | 平均 |
|-------|----|----|----|------|
| 2.8点 | | | | 2.8点 |